

戦争を知らない若い世代の 交流のひろば

今号では、趣向を変え、若い世代に新聞紙上を通じ、訴え続けられてきたある戦争体験者の原稿を掲載します。

何のための改憲かわかってるヨ

西京区在住 加藤敦美 八九歳

いい加減なことを言わないで貰いたい。

安倍首相たちは口を開けば、国民の命と財産を守る、そのために憲法変えて軍隊と交戦権を昔に戻すと言うけれど、かつて兵隊だった私たちは知っている。安倍サンたちが鉄砲担いで私たちを守ってくれるわけではない。

私たちが鉄砲担がされて、撲られ怒鳴られ戦場に追い出されて死んで、安倍サン達偉いさんの生命財産を守るのである。



前大戦末期、昭和天皇は、一一歳の皇太子(現天皇)に手紙で、人間のタネを残すため終戦すると述べていた。米国大統領もそうだが権力者の眼に私たちは彼らのためにある群れでしかない。らしい。しかし、私たちは彼らを守る群れのタネではない。

一人一人の命の自由の意志である主権者、その立憲主義の本体なる人間であるのだ。権力者のために飼われている動物なんかではないのだ。

米国に「忠実」な人物が、改憲で兵隊になる私たちを「提供」する。そう疑う根拠はある。

だから、一人一人の人間の日本国憲法が一字一句変えられず七〇年続いている。何もかもお見通しなのである。

若者に署名をお願いする上での工夫

若い人がなかなか署名してくれないという声をよくききます。署名を訴えるうえで、私たち自身の対話に一層の工夫が求められているのではないのでしょうか。

西京九条の会の会員さんで、若い人たちに署名を訴える際、対話に工夫を凝らしている仲間がいます。

以下に彼の経験を紹介します。

学区内の全戸訪問行動の中で、玄関に二、三十歳代の女性が出てこられた際、いきなり憲法9条を守るための署名といっても彼女にはしっくりと来ないのではと思い、「今、国会が開かれていて、働き方の問題が議論になっています。この署名は、みんながよりよく暮らしていけるようにするためのものです」と訴えたところ、快く署名してくれたそうです。

皆さん、ぜひ参考にされてはいかがでしょうか。

文責 松尾9条の会 k・i

お断り

加藤さんが新聞に投稿されたものをご本人の了承を得て掲載させていただきました。

加藤さんのご厚意に感謝します。



講演者の小笠原さん（右端）：憲法九条京都の会・前事務局長 弁護士。
西京九条の会代表の中村さん（中央）、事務局・司会の下山さん（左）

「安倍9条改憲」の国会発議を
世論の力でSTOP
三〇〇〇万署名運動を
大成功させよう！

西京九条の会学習交流会より

アベ政権のウソを暴く

代表 中村 修

安倍総理夫人は、「教育勅語」を子供たちに教える姿勢に感激して、森友学園の名誉校長に就任しました。近畿財務局には安倍夫人のメッセージや写真まで示して国有地である国民の財産を8億円も値引きさせる「特別な案件」として処理しました。

国民の怒りが高まったので、公文書から安倍夫人などの名前を削除改ざんし、交渉記録などは廃棄したと国会に報告していました。「妻も私も関わっていない、関わっていたら総理大臣も国会議員も辞職する」とも言っていました。

南スーダン日報隠し

自衛隊の宿営地を横に睨みながら、政府軍と反政府軍が戦闘するなど危険な状態が続きました。そのことを報告する現地PKO部隊の日報では「戦闘行為」と報告しました。戦闘行為があればPKOは撤収しなければならぬのに、稲田防衛大臣は日報を廃棄したと国会にウソの報告をし、追求されると、安倍総理は稲田大臣を擁護しました。350名の自衛隊員の命を軽んじた行為であり、絶対に許せません。

さらに、アベ内閣は憲法に「緊急事態条項」を盛り込もうとしています。「緊急事態条項」というのは、いわゆる「戒厳令」のことです。内閣が判断すれば、国民や地方自治体の一切の権利を制限することの出来る恐ろしい法律です。

アベ政権はウソとごまかしの政権です。